

平成31年度

入学試験問題

学校法人 明星学園

浦和学院専門学校

看護学科

国語

(一般入試 I期)

[注意事項] (試験が始まる前に読んでおくこと。)

- 1 受験票は机の上に表示された受験番号の横におくこと。
- 2 問題用紙は試験開始の合図があるまで開かないこと。
- 3 解答用紙に受験番号、氏名を正確に記入すること。
- 4 下敷の使用は禁止する。
- 5 試験終了時に解答用紙と問題用紙は別々に回収する。
- 6 試験終了後は試験監督の指示に従って行動すること。

※ なお、試験中に気分が悪くなった場合は試験監督に申し出ること。

一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「腰がすわる」というのは、身体の実際の構えであるが、Aものごとへの向かい方、人生の態度としての意味の広がりをもっている。夏目漱石が学習院の学生に講演した内容が、『私の個人主義』として残されている。この中で、漱石は「腰」をキーワードにして、仕事への態度を語っている。

漱石は、ふとしたことから、さほど志望していなかった英語教師になってしまう。自分でも、やりたいことはつきりしないままに、「そんなあやふやな態度で世の中へ出てとうとう教師になったというより教師にされてしまった」。どうにかこうにかお茶をにごしながら無事に済ませてはいものの、「腹の中は常に空虚」である。その a 空虚感も、それ自体がつきりしないものだ。

「空虚ならいつそ思い切りが良かったかも知れませんが、何だか不愉快な煮え切らない漠然たるものが、至る所に潜んでいるようで堪まらないのです。しかも一方では自分の職業としている教師というものに少しの興味ももち得ないのです。」

人生へのはつきりしないもどかしい心の状態が、「不愉快な煮え切らない漠然たるものが、至る所に潜んでいる」と 1 感覚的に表現されている。(a)

具体的には、「腹の中」が、自分の本当にやりたいことを探る場所になっている。「空虚感を感じる」というのは、今も ① ヒン・繁に使われる表現だ。

B、それが「腹の中は常に空虚」というように、腹という場所の実感として語られることは、現在ほとんどない。空虚感は、せいぜい「胸」あたりに感じるものであろう。「腹の中」にくらべて、気分的な性格が強くなり、軽くなっている。

(b)

漱石は、「この世に生まれた以上何かしなければならん」と思っても、「霧の中に閉じ込められた

② コ独の人間のように立ち竦んで」しまう。「囊の中に詰められて出る事のできない人のような気持」がするので、「一本の錐さえあればどこか一カ所突き破って見せるのだがと、焦燥り抜いた」

がどうにもならず、「腹の底ではこの先自分はどうなるだろうと思つて」③ イン鬱な日を送つた。そして、「不安を胸の底に畳んでついに外国まで渡つた」が、錐はロンドン中歩いていても見つからず、いくら書物を読んでも「腹の足しにはならないのだと諦め」た。(c)

西洋人が言えば、「自分の腑に落ちようが落ちまいが」それを触れてまわり、自分の「血とも肉とも云われない、よそよそしいものを我物顔にしゃべって歩く」自分に嫌気がする。C、自分

の思想の質が、「腑に落ちる」「血」「肉」という言葉で語られている。b 身体に深くしみ込む感覚が、思想の質の分かれ目になっている。(d)

空虚感という心身未分の状態や本心は、「腹」で感じ取られる。一方、「私は始終中腰で隙があったら、自分の本領へ飛び移ろう飛び移ろうとのみ思っていたのですが、さてその本領というのがあつたようで、無いようで、どこを向いても、思い切つてやつと飛び移れないのです」というように、仕事への構えは、「中腰」など「腰」のあり方として把握される。(e)

D、

飾り気なく「独立した一個の日本人」として ④ ケン識をもたねば、「自分の腹の中はいつまで経つたつて安心はできないという事」に気がつき出し、「立脚点」を求めるようになった。

この「立脚点」という言葉も、西洋の圧力にこうしてしっかりと自分の足で「立つ」ことを意味す

ることを思うと、c 比喩以上の思いが込められていると言える。「立つ」という動きがしっかりと自分の技になる地点を見きわめようとしている。

そして、「自己本位という言葉を自分の手に握ってから大変強くなり」、「彼ら何者ぞやと気概が」出てきた。その感触は、「多年の間懊悩した結果ようやく自分の鶴嘴つるはしをがちりと鉦脈に掘り当てたような気がした」というものだった。

ここでは、「d 鶴嘴をがちりと鉦脈に掘り当てた」という表現には、深みがある。「掘る」という動きが技として身についたときに、「がちりと」音がするような硬質な出会いがあるというのだ。自己の奥を掘り下げる心の作業が、「掘る」という身体の技として実感されている。

つるはしを振るうためには、腰の構えが、ふらふらししないで、しっかりと決まっている必要がある。

「どうしても、一つ自分の鶴嘴で掘り当てるところまで進んで行かなくては行けないでしょう。行けないというのは、もし掘りあてる事ができなかったなら、その人は生涯不愉快で、始終中腰になって世の中にまごまごしていなければならないからです。」

ここでの「掘る」は、心身未分の技である。腰が「中腰」で抜けていたら、鉦脈を掘り当てることができない。これは、「がちりと」音がするような仕事との硬質な出会いへの身体技法のメッセージとなっている。

斎藤孝『子どもたちはなぜキレるのか』

問一 点線部①～④のカタカナを漢字に直したときと同じ漢字を用いるものをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

① ヒン繁【解答番号は1】

- a ヒン死の重態。
- b ヒン質管理が重要だ。
- c ヒン困が問題となっている。
- d 今回は主ヒンとして招かれている。
- e 使用ヒン度が落ちてきている。

② コ独【解答番号は2】

- a 対立の結果、コ立してしまった。
- b コ問の先生に相談する。
- c コ用契約を結ぶ。
- d コを描くように投げる。
- e コ定客が多くいる。

③ イン鬱【解答番号は3】

- a 試合に勝って溜インが下がった。
- b レッカー車で牽インする。
- c 余インにひたる。
- d イン果応報である。
- e イン険な性格だ。

④ ケン識【解答番号は4】

- a 邪ケンに扱う。
- b 晴雨ケン用の傘。
- c 頑ケンな体を持っている。
- d 首都ケンでは多く見られる現象だ。
- e 試しにケン学に訪れた。

問二 空欄

A

D

 を埋めるのに最も適当な語を次の中から選び、それぞれ記号で答えな

さい。同じ記号は一度しか使えません。「Aは解答番号は5、Bは解答番号は6、Cは解答番号は7、Dは解答番号は8」

- a しかし
- b やがて
- c そもそも
- d 同時に
- e このように

問三 本文のある箇所からは次の一文が抜けています。元に戻す場合に最も適当な箇所を(a)～

(e)の記号で答えなさい。【解答番号は9】

へ()ここでは、人生の態度の問題が、身体感覚と不可分のものとして捉えられている。く

問四 傍線部 a 「空虚感」を説明する言葉としてあてはまらないものを次の中から選び、記号で答えな

さい。【解答番号は10】

- a 人生へのはつきりしないもどかしい心の状態。
- b 「腰」のあり方として把握されるもの。
- c 自分の職業である教師に少しの興味ももち得ない状態。
- d 不愉快な煮え切らない漠然たるもの。
- e 心身未分の状態や本心。

問五 傍線部 b 「身体に深くしみ込む感覚が、思想の質の分かれ目になっている」とは何を指しますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。【解答番号は 11】

- a 腹の中に感じる空虚感をなくさない限り、海外での思想は会得できないのだということ。
- b 多くの身体感覚を知らねば確固たる思想には至れないのだということ。
- c 身体で会得した体験が強ければ強いほど質の高い思想になるのだということ。
- d 思想の質の深さが、身体にしみ込んだ感覚の度合いによって表現されているということ。
- e 質の高い思想は健康な身体にしか宿らないのだということ。

問六 傍線部 c 「比喩以上の思い」とは何を指しますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。【解答番号は 12】

- a 「立脚点」という言葉を用いることで、西洋の圧力に対抗することができるのだということ。
- b 「立脚点」とはあくまで言葉の問題であり、とるに足りないものであるのだということ。
- c 「立脚点」という言葉では表現しきれない身体感覚を身に付けなければならぬということ。
- d 「立つ」という言葉は、西洋人の身体感覚を説明するにふさわしいものだということ。
- e 「立つ」という身体の動きが「独立した一個の日本人」としての感覚と結びつくこと。

問七 空欄 1 にあてはまる語として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。【解答番号は 13】

- a 心身
- b 共有
- c 個人
- d 身体
- e 精神

問八 傍線部 d 「鶴嘴をがちりと鉦脈に掘り当てた」とはどういうことか。説明するものとして、あてはまるものを次の中から選び、記号で答えなさい。【解答番号は 14】

- a 便利な鶴嘴を手にしたからこそ貴重な鉦脈を探り当て財を得られたのだということ。
- b 鶴嘴を使い、身体活動を行うことで心身ともに健康になったのだということ。
- c 自己本位という言葉に頼らず、自分の力で真実を探り当てたということ。
- d 自己本位という言葉を得て、自己の奥を掘り下げる心の作業に成功したということ。
- e 鉦脈にたどり着くまであきらめないことが身体活動においては大切だということ。

問九 本文の内容と合致しないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。〔解答番号は15〕

- a 身体の実際の構えは人生の態度としての意味の広がりももっている。
- b 昔も今も人々は「空虚感」を腹という場所の実感としてとらえている。
- c 空虚感という心身未分の状態や本心は「腹」で感じ取られ、仕事への構えは「腰」のあり方として把握される。
- d 漱石のエピソードは身体之感覚と人生の態度の問題が不可分のものであることを説明するために用いられている。
- e 「立脚点」を求めるようになったのは、「独立した一個の日本人」としての判断力を持たなければ「腹の中」はいつまでも安心できないということに気が付いたからである。

二 次の①～⑩の熟語の構成をあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 弔辞〔解答番号は16〕 ② 吉凶〔解答番号は17〕
- ③ 遮光〔解答番号は18〕 ④ 閑暇〔解答番号は19〕
- ⑤ 疾患〔解答番号は20〕 ⑥ 未来〔解答番号は21〕
- ⑦ 渋滞〔解答番号は22〕 ⑧ 挑戦〔解答番号は23〕
- ⑨ 出廷〔解答番号は24〕 ⑩ 債務〔解答番号は25〕
- a 同じような意味の漢字を重ねたもの。
- b 反対または対応の意味の漢字を重ねたもの。
- c 上の字が下の字を修飾しているもの。
- d 下の字が上の字の目的語・補語になっているもの。
- e 上の字が下の字の意味を打ち消しているもの。

三 次の熟語の対義語をあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 拾得〔解答番号は26〕 ② 栄転〔解答番号は27〕
- ③ 起伏〔解答番号は28〕 ④ 緊張〔解答番号は29〕
- ⑤ 分散〔解答番号は30〕

- a 平坦 b 遺失 c 左遷 d 集中 e 弛緩

四 次の熟語の類義語をあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 拠点【解答番号は31】 ② 傾斜【解答番号は32】

③ 音信【解答番号は33】 ④ 座視【解答番号は34】

⑤ 機転【解答番号は35】

a 勾配 b 基地 c 才覚 d 傍観 e 消息

五 空欄に入る適語を次の語群から選び、それぞれ記号で答えなさい。

① □者必滅【解答番号は36】 ② 酒池□林【解答番号は37】

③ 勸善□悪【解答番号は38】 ④ 愛別離□【解答番号は39】

⑤ 意味□長【解答番号は40】

⑤	a	心	b	深	c	新	d	真	e	短
④	a	別	b	苦	c	反	d	脱	e	陸
③	a	懲	b	微	c	微	d	弔	e	超
②	a	肉	b	魚	c	杯	d	森	e	無
①	a	盛	b	弱	c	強	d	死	e	生

六 空欄に入る適語を次の語群から選び、それぞれ記号で答えなさい。

① はきだめに□【解答番号は41】

② 一寸の虫にも□分の魂【解答番号は42】

③ □に衣着せぬ【解答番号は43】

④ 逃がした□は大きい【解答番号は44】

⑤ 目から□へ抜ける【解答番号は45】

⑤	a	首	b	耳	c	目	d	鼻	e	口
④	a	馬	b	魚	c	兎	d	鳥	e	牛
③	a	肩	b	腕	c	齒	d	顔	e	首
②	a	一	b	二	c	三	d	四	e	五
①	a	猫	b	犬	c	蛇	d	鶴	e	虫

七 次の①～⑤の傍線部の活用の種類として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を何度用いても構いません。

- ① 彼は依存心が強いと思つた。〔解答番号は46〕
- ② 一緒に歌おう。〔解答番号は47〕
- ③ 彼女は泳ぐのが好きだ。〔解答番号は48〕
- ④ 少年が一人座つている。〔解答番号は49〕
- ⑤ 一度間違えても諦めるな。〔解答番号は50〕

- a 未然形
- b 連用形
- c 終止形
- d 連体形
- e 仮定形